

ICU新人看護師の技術達成度と達成時期の評価 —基本的看護技術チェックリストのカテゴリー分析から—

キーワード:主観的達成度・客観的達成度・カテゴリー・達成時期・新人の不安
1病棟3階東

有田さおり 山田映子 国澤香織 板屋聡子

I. はじめに

重篤な患者を収容し集中的な治療・看護を行うICUでは専門的な知識・技術、また迅速で冷静な対応が必要である。そのため、新人看護師(以下新人)にも多くの知識・技術が要求される。

年間目標をもとに作成した基本的看護技術チェックリストを用いた先行研究では、各技術の経験の有無は把握できるが知識・理解度は把握し難いと言う事が明らかになった。また、新人は1人で実施できた技術でも不安を感じていた。

そこで今回、技術項目のカテゴリー化を行い、カテゴリー別に新人の技術達成度を主観的及び客観的に評価した上で、新人が習得困難で不安を伴う技術を明らかにし、各カテゴリーの達成時期の設定の評価を行ったので報告する。

II. 研究方法

研究期間:H18. 4月中旬～7月中旬

対象:新人看護師1名、プリセプター2名

研究内容:

- ・ CCMCの年間目標に基づいて1ヶ月毎に達成すべき目標を色分けした基本的看護技術チェックリスト(表1)を作成し、3ヶ月で習得できることを目標に使用した。
- ・ 1ヶ月毎に新人・プリセプターが達成度を4段階(1、全くできない2、あまりできない3、なんとかできる4、自立してできる)で評価し、新人の評価を主観的達成度、プリセプターの評価を客観的達成度とした。
- ・ 新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会が出した指導指針を参考に、技術項目を『物品管理』『食事援助技術』など11のカテゴリーに分け、評価した主観的達成度・客観的達成度の平均点をカテゴリー別に比較・検討した。

III. 結果

1・2ヶ月で主観的・客観的達成度共に平均点が“3「なんとかできる」”に満たないカテゴリーに『感染防止の技術』があった。

3ヶ月では主観的達成度が“3「なんとかできる」”に満たないカテゴリーは、「退室時の申し送り」を含む『情報管理』のみで、平均点は2.6であった。客観的達成度では、平均点が3.6と主観的達成度と客観的達成度に差がみられた。

1ヶ月で『清潔・衣生活援助技術』のみ主観的達成度の平均点が3.22と“3「なんとかできる」”以上で、そのカテゴリー内の技術でも「手浴」「足浴」などが主観的・客観的達成度共に“4:自立してできる”であった。

個々の技術を見ると「モニタック・ネーザルからの吸引」「皮下注射」「筋肉注射」の技術が主観的・客観的達成度共に、3ヶ月になっても“2「あまりできない」”ないし“1「全くできない」”であった。

IV. 考察

「手浴」「足浴」「洗髪」を含む『清潔・衣生活援助技術』が1ヶ月で“3:「なんとかできる」”以上になったのは、セルフケア援助が必須の患者が多く、感染防止の面からも清潔ケアに力を入れていることや、スキンシップが図れ患者に関わりやすいことから、他の技術に比べ経験が多かったためと考えられる。また、本山ら²⁾はICU・急性期ケア領域に配属された新卒看護師の調査で「清潔ケア、体位変換、ME 機器の取り扱いは自信があると述べており、日々実践する看護技術に関しては自信を持てるようになってくることが推測される。」と述べている。これらの事から、『清潔・衣生活援助技術』の達成時期は1ヶ月が適切と考え、新人が得意とする技術項目から習得を進めていくことで、新人の自信につながるのではないかと考える。

2ヶ月経っても『感染防止の技術』の達成度が主観的・客観的に低かったのは、新人は無菌操作が不確かで、洗浄・消毒・滅菌・ドレープ類の適切な選択をする知識も不足している為と考える。本山ら¹⁾は新卒看護師が「手技的技術で困難に感じていることは看護技術全般に自信がなく、特に無菌操作、静脈内留置カテーテル挿入、救急処置について技術不足であると挙げている。」と述べている。これらの事から、経験数を増やし知識と技術を養えるよう指導者は配慮すべきであり、達成時期の設定は3ヶ月以降が適切だと考える。3ヶ月で「退室時の申し送り」を含む『情報管理』の平均点が主観的達成度2.6、客観的達成度3.6と差が見られていた。このことは、新人が病態を解釈する能力が未熟であり、重要な点が的確に申し送れないために自信が持てず、自己評価が低くなっていると考えられる。その為、指導者は病態を把握しやすいように病態関連図の作成や、病態の理解度を質問等で確認することも必要である。また、指導者が申し送り前に重要なポイントの確認を行うことで知識・理解度が深まり、自信が持てるのではないかと考える。3ヶ月になっても『与薬の技術』のカテゴリーに含まれる「皮下注射」「筋肉注射」の評価が低いのは、ICU領域では経験する機会が少ないためだと考える。また、『呼吸・循環を整える技術』のカテゴリーに含まれる「モニタック・ネーザルからの吸引」の評価が低いのは、3ヶ月の期間に症例がなく経験できなかったためと考える。以上の技術は達成時期の設定を3ヶ月以降にすることと、経験が少ない技術を指導者が拾い出し、優先的に行えるように心がける必要があると考える。

V. まとめ

- 1、新人が習得困難で不安を伴う技術を明らかにし、達成時期の設定の評価を行うために技術項目のカテゴリー化を行い、技術達成度を主観的・客観的に評価した。
- 2、新人が習得困難で不安を伴う技術のカテゴリーは『感染防止の技術』『情報管理』であった。これらに関しては達成時期の設定は3ヶ月以降にし、指導者は継続して積極的に関わる必要がある。
- 3、『清潔・衣生活援助技術』のカテゴリーは1ヶ月で主観的・客観的達成度共に“3:「なんとかできる」”以上であった。

VI. 引用・参考文献

- 1), 2) 本山仁美, 坂口桃子, 作田裕美:ICU・急性期ケア領域に配属された看護系大学新卒看護師の看護実践の現状と課題, 第31回日本集中治療医学会学術集会
- 3) 野地金子:「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書の活用に向けて—到達目標、指導指針実践の手引き—, HANDS—ON, Vol. No.1 Summer p.56~65, 2006
- 4) 宮崎恵美子, 内田順子, 蒲浦博枝:当院集中治療部における新人教育, HEART nursing, Vol.18 No.3 p.58~64, 2005

5) 片岡由美, 島本千秋, 米田眞智子, 山勢博彰: プリセプターとプリセプティの不安と対処—当病棟のプリセプターシップ制度より—, EMARGENCY CARE, vol.18 no.12, 2005

表1. 新採用者基本的看護技術チェックリスト(抜粋)

※	坐薬												
※	浣腸												
清潔の介助	※	口腔ケア(非挿管患者)											
	※	口腔ケア(挿管患者)											
		清拭											
		陰部洗浄											
		更衣: 術衣											
		更衣: 浴衣											
		手浴											
		足浴											
		洗髪											

◆人工呼吸器装着中の気管内吸引は人工呼吸の原理が分かった上で施行することとする。

<チェックリスト使用方法>

□ ……1ヶ月 □ ……2ヶ月 ■ ……3ヶ月

- ・勤務始めに指導者と共にチェックリストを確認する。
- ・各欄に経験した日付を書く。但し、1項目を同日に数回行って日付は1日のみとする。
- ・※印のものは“指導しながら”の3回目に口頭で操作の根拠を述べながら行う。3回目が合格であれば次回から一人で行う。3回で不合格の場合3回以上行う。
- ・一人で行うにあたって不安要素があれば個人ノートに記載する。
- ・勤務終わりに指導者と共にチェックリストを記入する。
- ・到達目標はピンク:1ヶ月、黄色:2ヶ月、水色:3ヶ月とする。

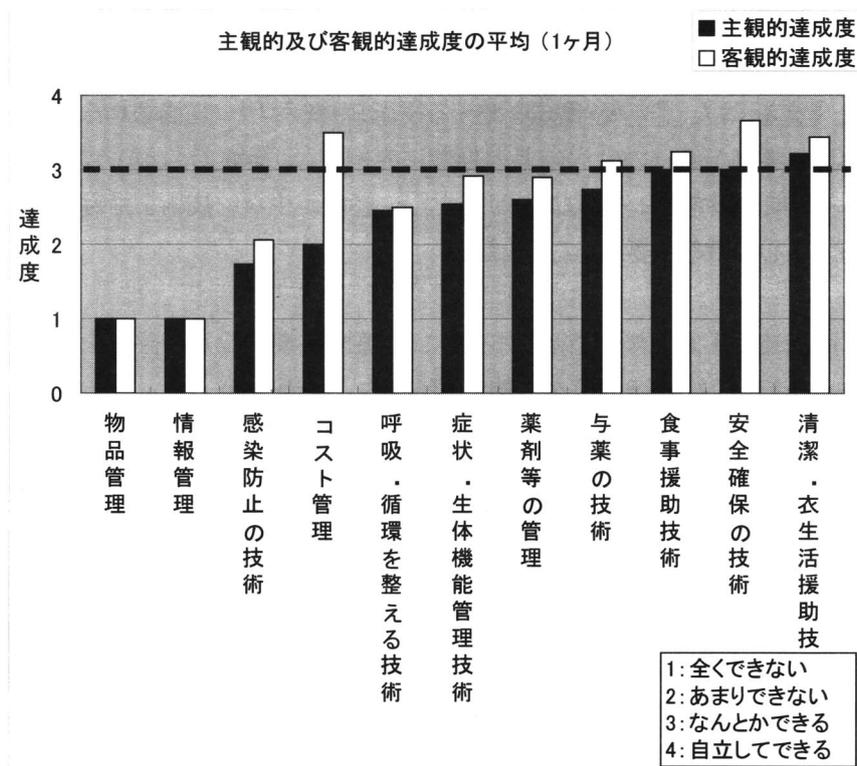


図1. 主観的及び客観的達成度の平均(1ヶ月)

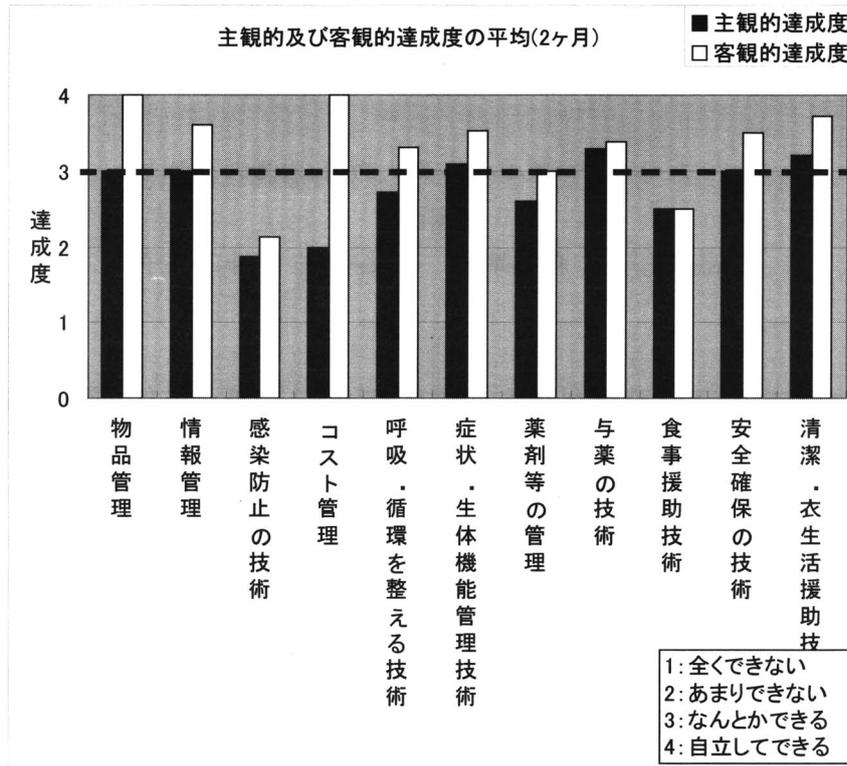


図2.主観的及び客観的達成度の平均(2ヶ月)

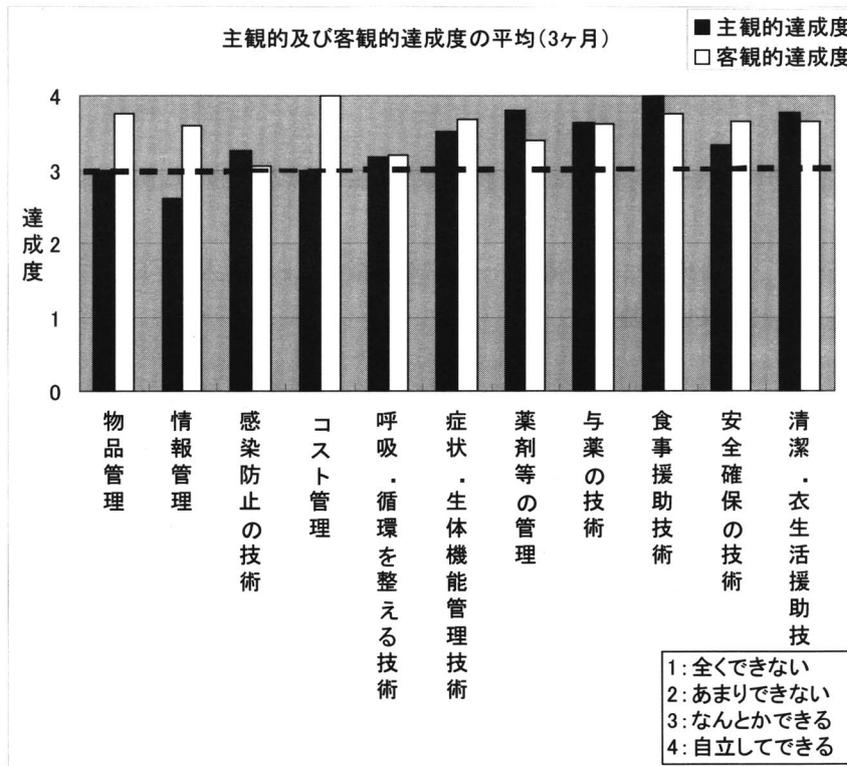


図3.主観的及び客観的達成度の平均(3ヶ月)